

白馬村社会福祉推進委員会 第1回高齢者福祉部会 会議の要旨

【日 時】令和5年12月25日（月曜日）午後1時30分～4時00分

【会 場】白馬村役場 2階 庁議室

【出席者】

白馬村民生児童委員協議会	太田 文敏	○
大北医師会	栗田 裕二	-
白馬村議会	尾川 耕	○
特別養護老人ホーム 白嶺	岡田 記子	-
介護老人保健施設 白馬メディア	中尾 浩樹	○
小規模多機能 おらの家あそなか	吉羽 一成	○
地域健康づくり支援研究所 健學塾	影山 鈴子	○
白馬村地域包括支援センター	川嶋 一暢	○
公募委員	西沢 千賀子	○

事務局

白馬村健康福祉課 課長	工藤 弘美	○
白馬村健康福祉課 福祉介護係長	太田 和也	○

開 会（13：30）

（事務局） 開会を宣言。

1. 部会長あいさつ

（太田部会長） 今日協議する「高齢者福祉計画」については、向こう3年間の白馬村高齢者福祉施策の基本となるものである。事務局で素案がまとめられましたので慎重審議をお願いします。

2. 協議事項

（委 員） 会のはじめに、今後のスケジュールも考慮すると、今日はどこまでを議論すべきと事務局では考えていますか。

（事務局） 事務局で作成した素案の内容と今日の協議にもよりますが、今日は素案の全てをご確認いただき、大きな指摘事項がなければ、2月からのパブリックコメントに進みます。指摘事項や修正箇所が多いようであれば、1月に再度部会を開催したいと考えている。

（1）第1章 計画の概要、第2章 高齢者を取り巻く現状と将来の見通し

事務局より素案説明

（委 員） 3ページの高齢者のみ世帯とはどのようなカウントの仕方になるのか。

- (事務局) 住民登録の世帯でカウントをしている。同一敷地内に別世帯で子どもの家族がいる場合もあるが、そこまでは同一世帯として反映していない。
- (委員) 6 ページの表 7 について、サービス利用件数の減少を新型コロナウイルス感染症の影響で利用控えがあったとの説明であったが、曜日が合わない、白馬村で提供されないサービスなどもあって、利用したくても利用ができない場合があることも承知しておくべきである。
- (委員) 同じページの表 7 について、件数で表示となっているが、人数で利用数を把握しておくことも必要である。
- (委員) 運転免許証の返納は認知症との関連性もあるように感じる。免許証を返納したことで外出控えが起こり、認知機能が衰えるきっかけにもなりうる。近所との接点も必要であるし、村としてはデマンドタクシーなど、引き続き移動支援は必要と考える。
- (事務局) 一方で、認知機能の衰えを感じることで運転免許証を返納している場合もある。

(2) 第 3 章 前期計画の評価

事務局より素案説明

- (委員) 配食サービスは目標値に対して、実績が大きく下回っている。
- (事務局) 目標として数値化されているのは、あくまで利用料の一部を村が助成した分のみである。助成の対象となるには所得要件があり、助成を受けず配食サービスを利用している方もいる。A事業所では助成対象外での利用が月平均 300 食ある。所得要件の緩和など拡充することも考えられる。
- (委員) B事業所は村からの助成は無いが、月 480 食ほど利用がある。また、白馬村内ではもう 1 社配食サービスを行っている。全てを合計すれば相当な食数となっている。
- (委員) 特定健診の受診率について、どのように考えているか。
- (事務局) 県内では平均値くらいになっている。受診率の高い世代が今後後期高齢者医療制度に移行していくことから、今後はこの数値を少しでも上げていくことが重要であると考えている。

(3) 第 4 章 計画の基本理念と目標、第 5 章 目標を実現するための施策の展開

事務局より素案説明

- (委員) 22 ページの「高齢者の生きがいづくり」について、目標設定を工夫することはできないか。
- (事務局) シニアクラブにおいては男性の料理教室、ニュースポーツ大会、ウォーキング教室などを開催している。地区ごとに単位クラブも構成されており、地区の活性化にもつながるものとする。コロナウイルス感染症の影響と、村の課題として区への未加入の問題もある。地域のつながりで介護予防活動もコロナ禍以前に戻したいという思いもありますし、元気な高齢者が増えていることから、地域活性化の一つとしてもシニアのつながりを重視していることをご理解いただきたい。

- (委 員) 介護現場は人材不足ということもあるので、生活支援サービス従事者等養成講座を受講した方の活躍の場を作してほしい。
- (委 員) ささまざまなボランティアが活動してくれてはいるが、将来を考えたとき限界があるのではないかと。議会でも取り上げていたが、「ボランティアポイント」制度の導入など検討した方が良いのではないかと。
- (事務局) 広域連合でも検討をしている。施設で行うボランティア活動については、活動状況を把握可能ではあるが、個人宅で実施する活動内容はなかなか把握が困難である。ボランティアの内容によっては困難な状況もある。
- (委 員) 在宅生活の支援、特に一人暮らしの方の支援はどうなっているか。電気使用量での安否確認などは考えているか。
- (事務局) 急病等の緊急時に自宅から通報することができる装置の貸与を行っているところである。近年は固定電話を置く家も少なくなり、近い将来新たな機器等を検討しなければならないと思っている。将来的には双方向性を有するシステムの導入も検討すべきと考えるが、コストの面でなかなか容易にはいかない。
- (委 員) 認知症への取り組みとして、施設入所できない場合、在宅で看取ることのできる環境の整備も必要となってくる。
- (事務局) 第9期の介護保険事業計画において、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の新設1か所が整備計画として記載される予定である。
- (委 員) 避難行動要支援制度について、従来どおりの進め方だけではなかなか登録者数は増えない気がする。他の実効性ある方策も検討していくべきではないか。他市町村の取り組み事例も参考にし、「新たな方法の導入も検討していく」といった姿勢も記載してほしい。
- (事務局) 記載内容については修正する。

(4) 今後のスケジュールについて

- (事務局) 誤字と「避難行動支援制度」についての修正は事務局一任ということで修正をさせていただく。

今後は、障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画と合わせて、2月1日から30日間パブリックコメントを実施する予定。

パブリックコメントを経て、事務局にて修正を行い、3月上旬から中旬には「白馬村社会福祉推進委員会」を開催し、4つの計画が策定されるという運びとなる。

3月に再度参集いただきますので、よろしくお願いいたします。

閉 会 (16:00)

(事務局) 閉会を宣言